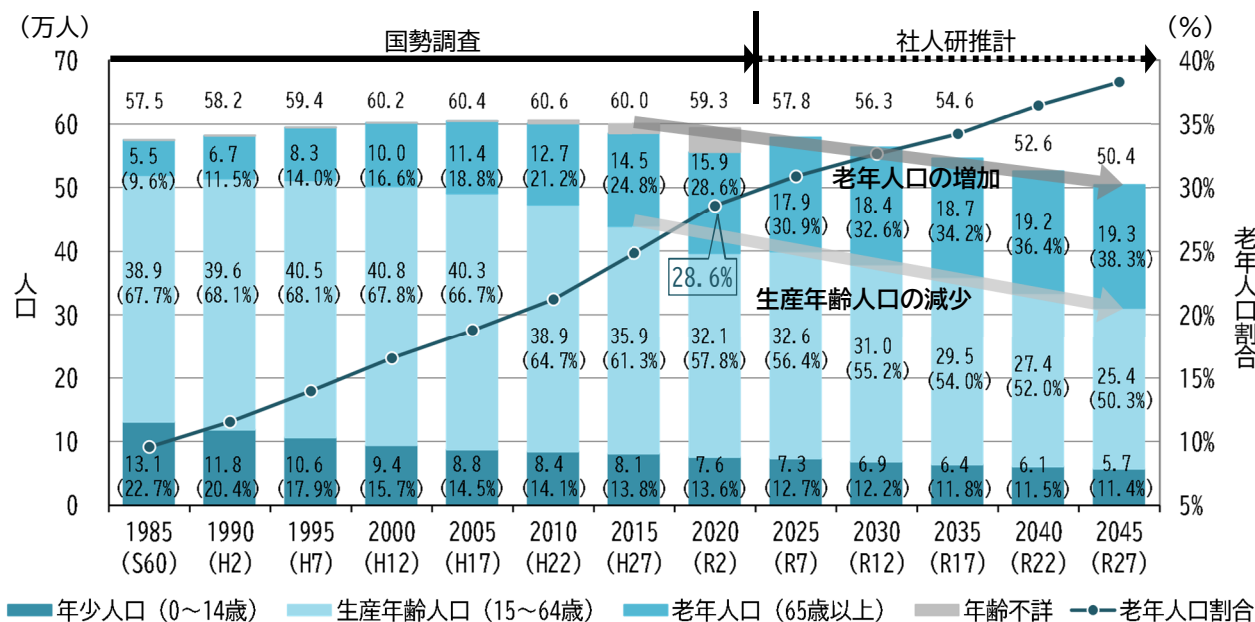


## 2. 本市の現状

### (1) 人口・世帯

#### ① 人口

人口は、2020（令和2）年から25年後の2045（令和27）年には約9万人減少するなか、65歳以上の人口がさらに増加し、経済活動を支える15～64歳人口が大きく減少することが予測されています。



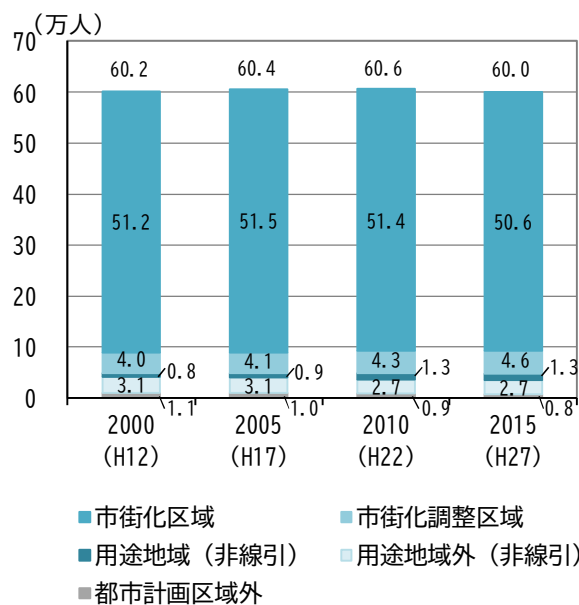
資料) 2020（令和2）年までは、国勢調査（2004（平成16）年に合併した5町を含む。）、  
2025（令和7）年以降は社人研の推計値（2018年3月公表）による。

#### ▲ 人口の推移

区域別の人口割合は、2000（平成12）年は、市街化区域に約85%が居住していましたが、その割合は徐々に低下しています。

一方で、市街化調整区域や非線引き都市計画区域の用途地域の人口割合は増加傾向にあります。

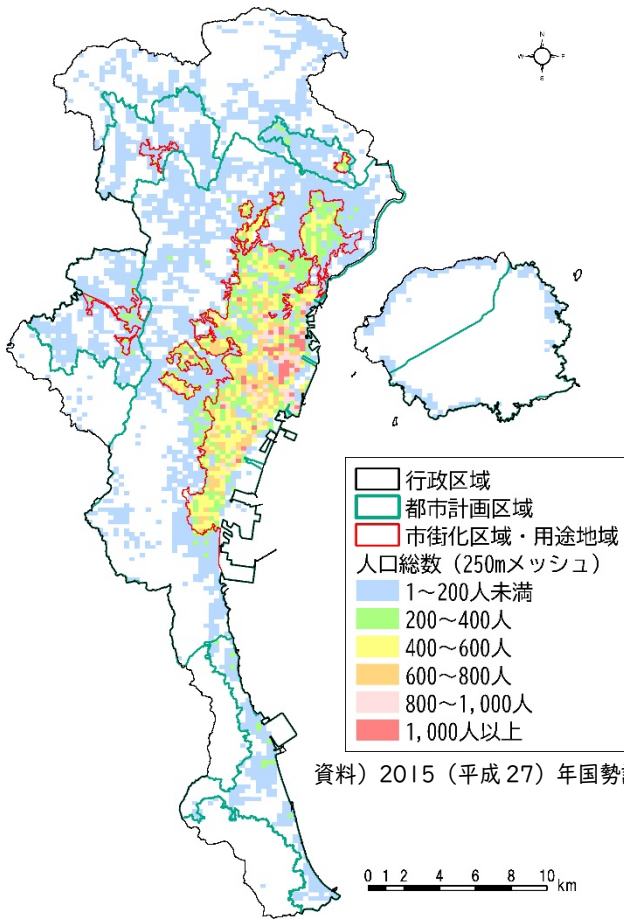
	2000年 (H12)	2005年 (H17)	2010年 (H22)	2015年 (H27)
市街化区域	85.1%	85.1%	84.8%	84.4%
市街化調整区域	6.7%	6.7%	7.1%	7.6%
用途地域（非線引）	1.4%	1.4%	2.1%	2.2%
用途地域外（非線引）	5.1%	5.1%	4.5%	4.5%
都市計画区域外	1.8%	1.7%	1.5%	1.3%



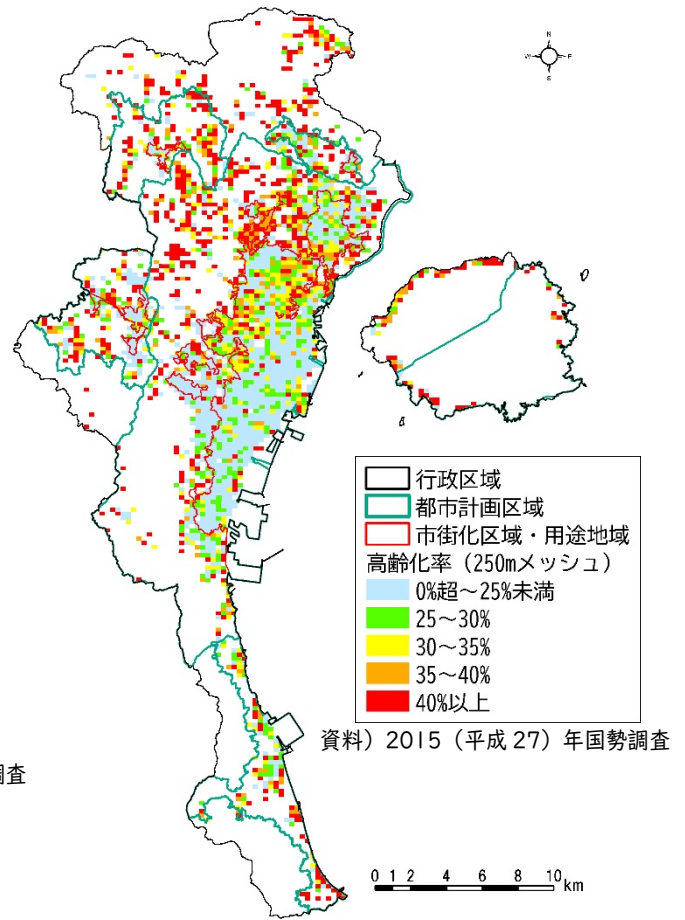
資料) 都市計画基礎調査（2004（平成16）年に合併した5町を含む。）

#### ▲ 区域別人口の推移

人口は、市街化区域や用途地域に概ね集中しています。  
 一方で、市街化調整区域や用途地域外では、高齢化率（65歳以上の人口割合）が高い状況にあります。



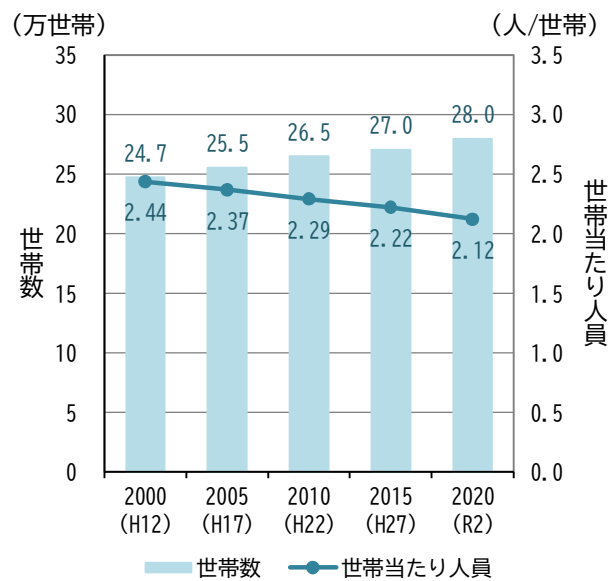
▲ 人口の分布



▲ 高齢化率

② 世帯

世帯当たり人員は、徐々に低下し、2020 (令和 2) 年には 2.12 人/世帯となっていますが、世帯数は継続して増加し、2020 (令和 2) 年には約 28 万世帯となっています。



資料) 国勢調査 (2004 (平成 16) 年に合併した 5 町を含む。)

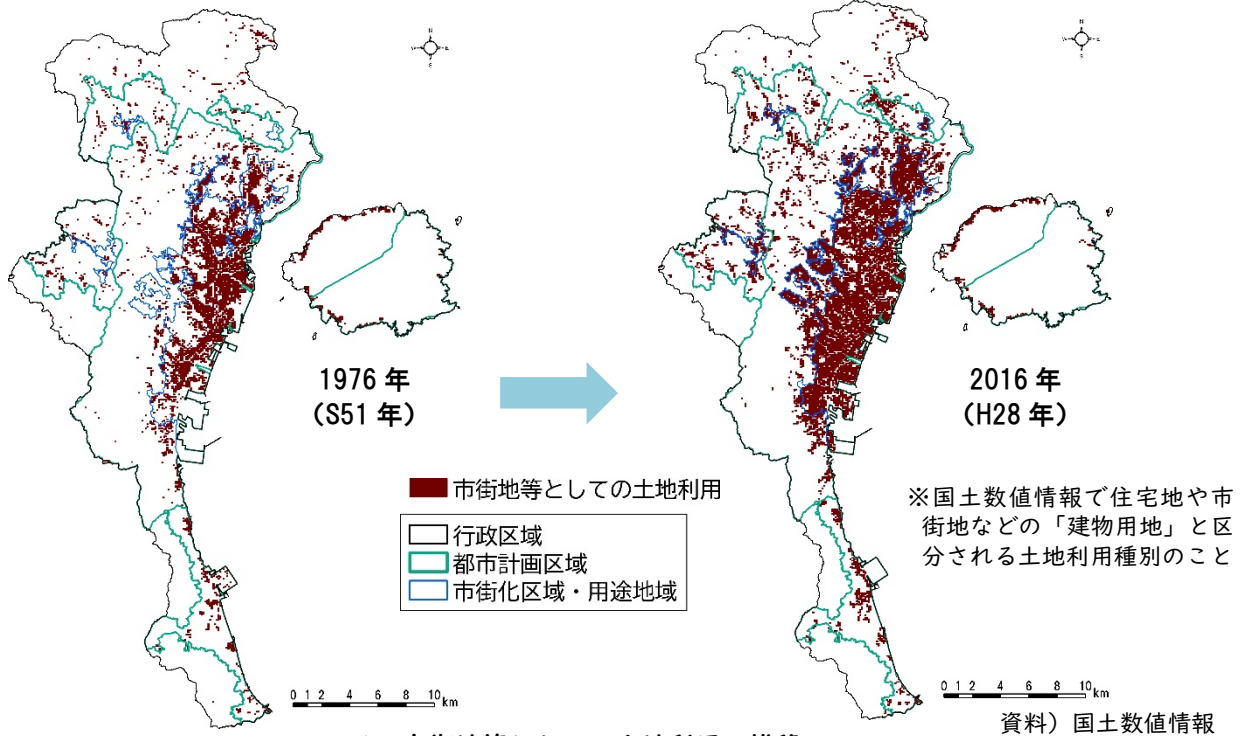
▲ 世帯の推移

## (2) 土地利用

### ① 土地利用の推移

市街地等としての土地利用<sup>\*</sup>は、1976（昭和51）年から2016（平成28）年の約40年間で拡大しています。

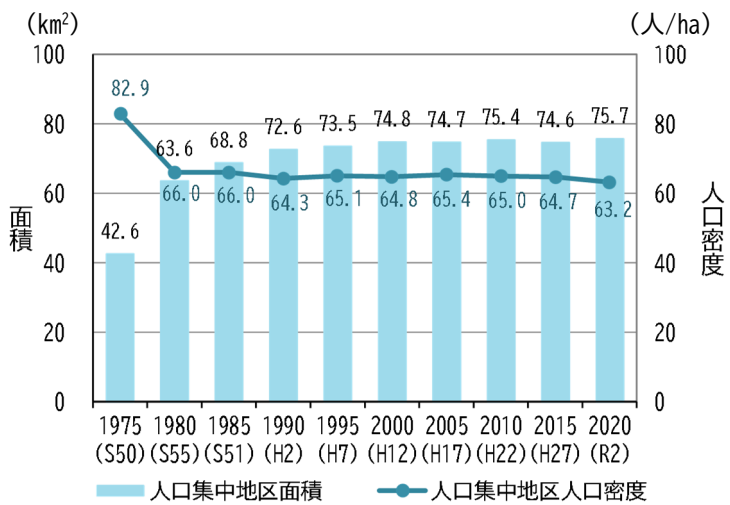
市街化区域や用途地域だけでなく、市街化調整区域などにおいても拡大していたことから、2015（平成27）年に「市街化調整区域における住宅建築等に関する条例」を改正しています。



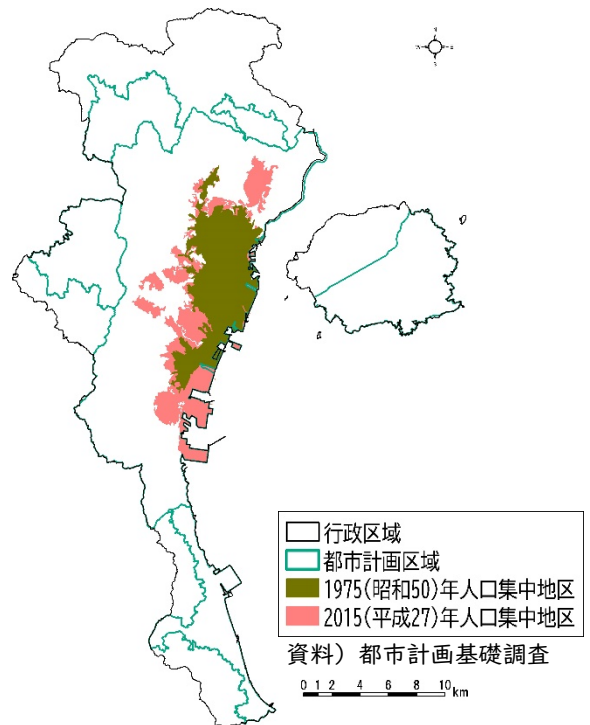
▲ 市街地等としての土地利用の推移

### ② 人口集中地区の推移

人口集中地区は、1975（昭和50）年時点の42.6 km<sup>2</sup>から1980（昭和55）年に大幅に拡大し、その後は面積、人口密度ともに概ね横ばいとなっています。



▲ 人口集中地区面積・人口密度の推移



▲ 人口集中地区の変遷



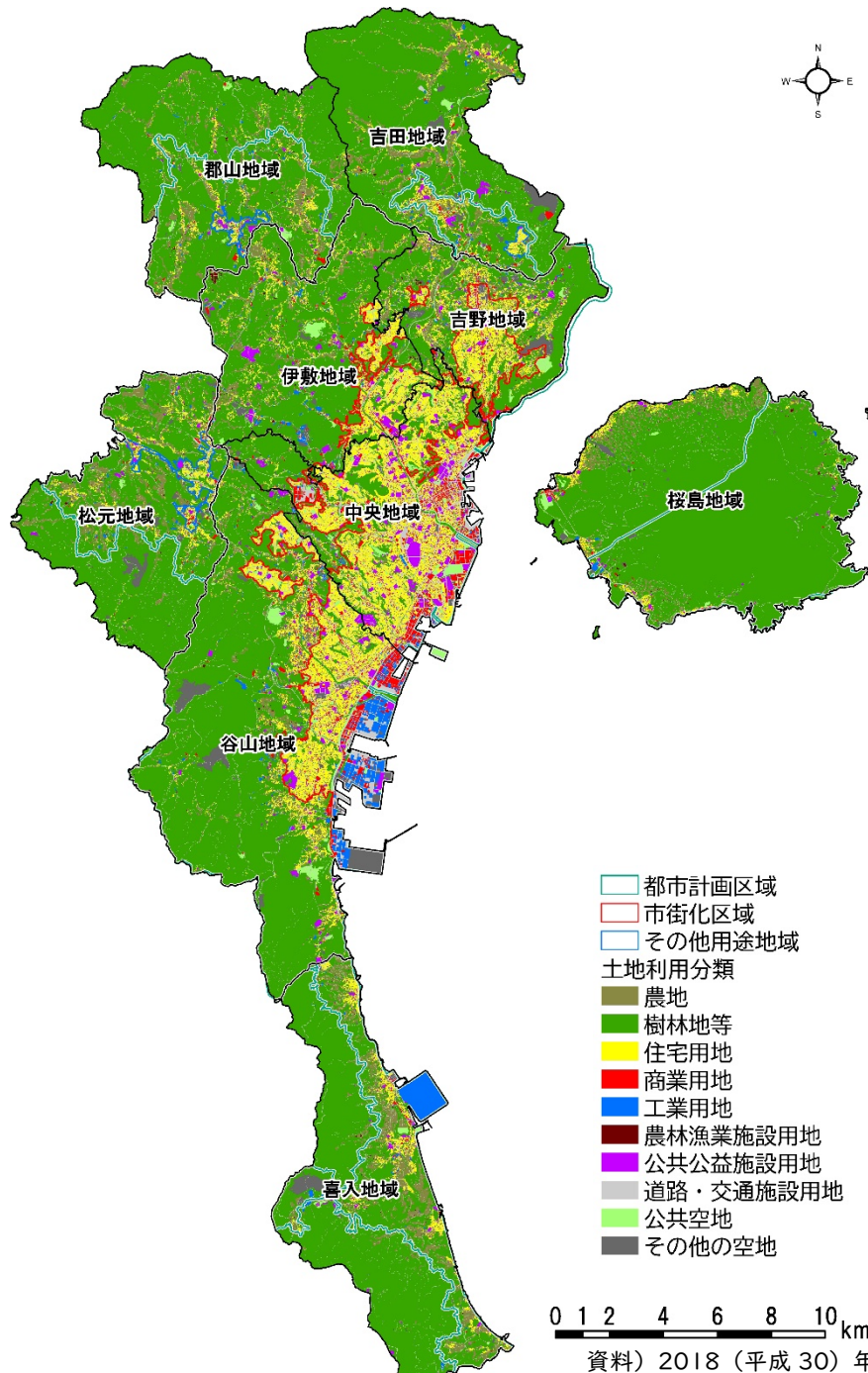
### ③ 土地利用の現況

平坦部の多くは市街化区域に指定され、宅地化が進んでいる一方、市街化区域外は概ね山林が広がっています。

「住宅用地」は市街化区域に広く分布していますが、市街化区域に近接する市街化調整区域においても、「農地」と混在している地域があります。

「商業用地」は中心市街地や臨海部などに分布し、「工業用地」は谷山地域や喜入地域の埋立地などにまとまって分布しているほか、市街化調整区域や用途地域外にも点在しています。

吉田地域、松元地域、郡山地域では、用途地域に「住宅用地」が集中していますが、山間部にも比較的まとまった「住宅用地」が点在しています。



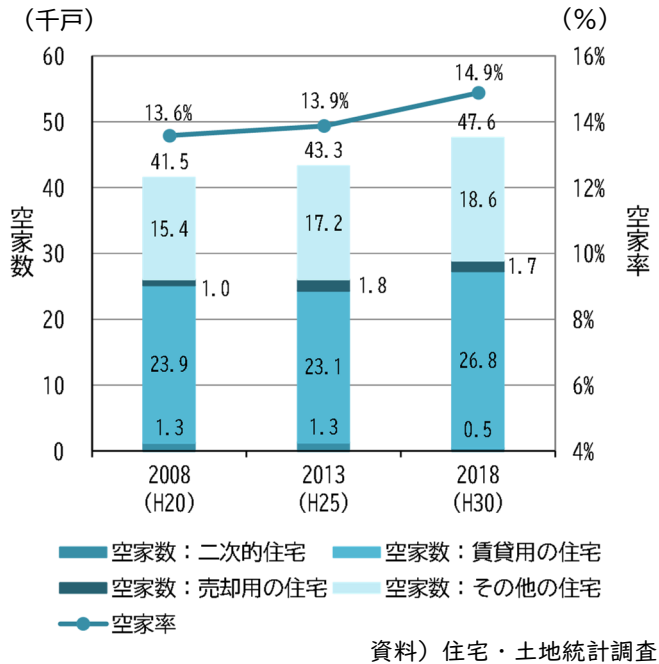
資料) 2018 (平成 30) 年度都市計画基礎調査

▲ 土地利用の分布



④ 空家数・空家率の推移

空家数は、増加傾向にあり、2018（平成30）年調査では空家数は47.6千戸、空家率は14.9%となっており、居住世帯が長期にわたって不在などの「その他の住宅」が18.6千戸となっています。

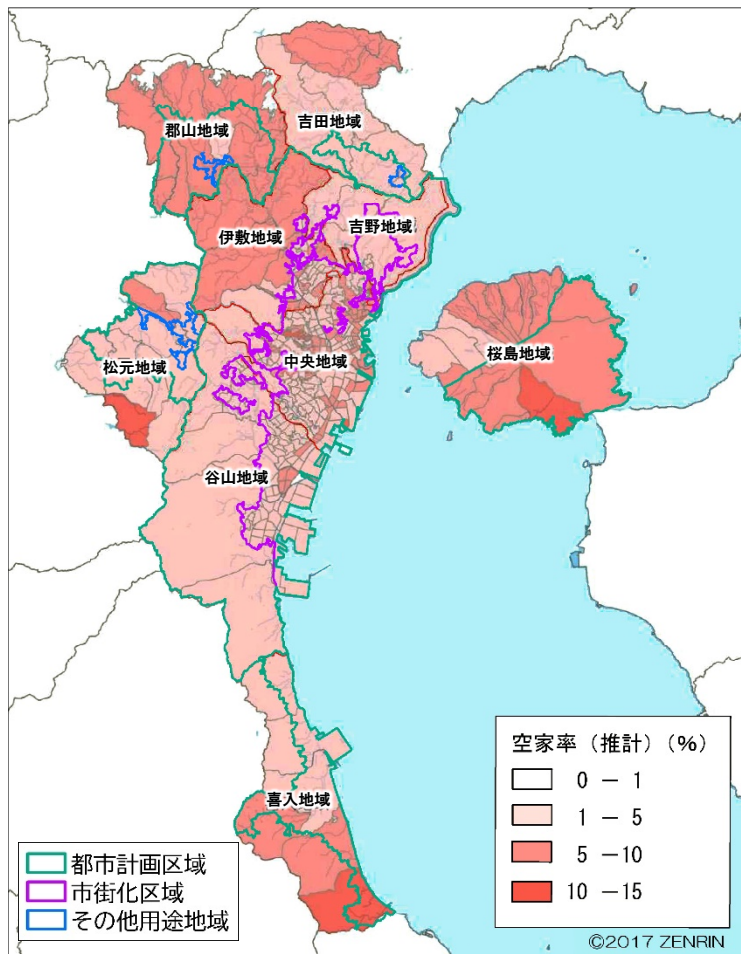


▲ 空家数・空家率の推移

空家率は、伊敷地域や桜島地域の市街化調整区域及び郡山地域で5%以上の地区が多く、また、松元地域、吉田地域の都市計画区域外の一部でも空家率が高くなっています。

喜入地域では、市中心部から離れた南部で10%以上の地区が見られます。

市街化区域にも空家率5%以上の地区が点在しており、中心市街地においても空家の発生による都市の空洞化が進行している状況にあります。



出典) 鹿児島市空き家等対策計画の「市内全域の空家の分布地図」を基に作成

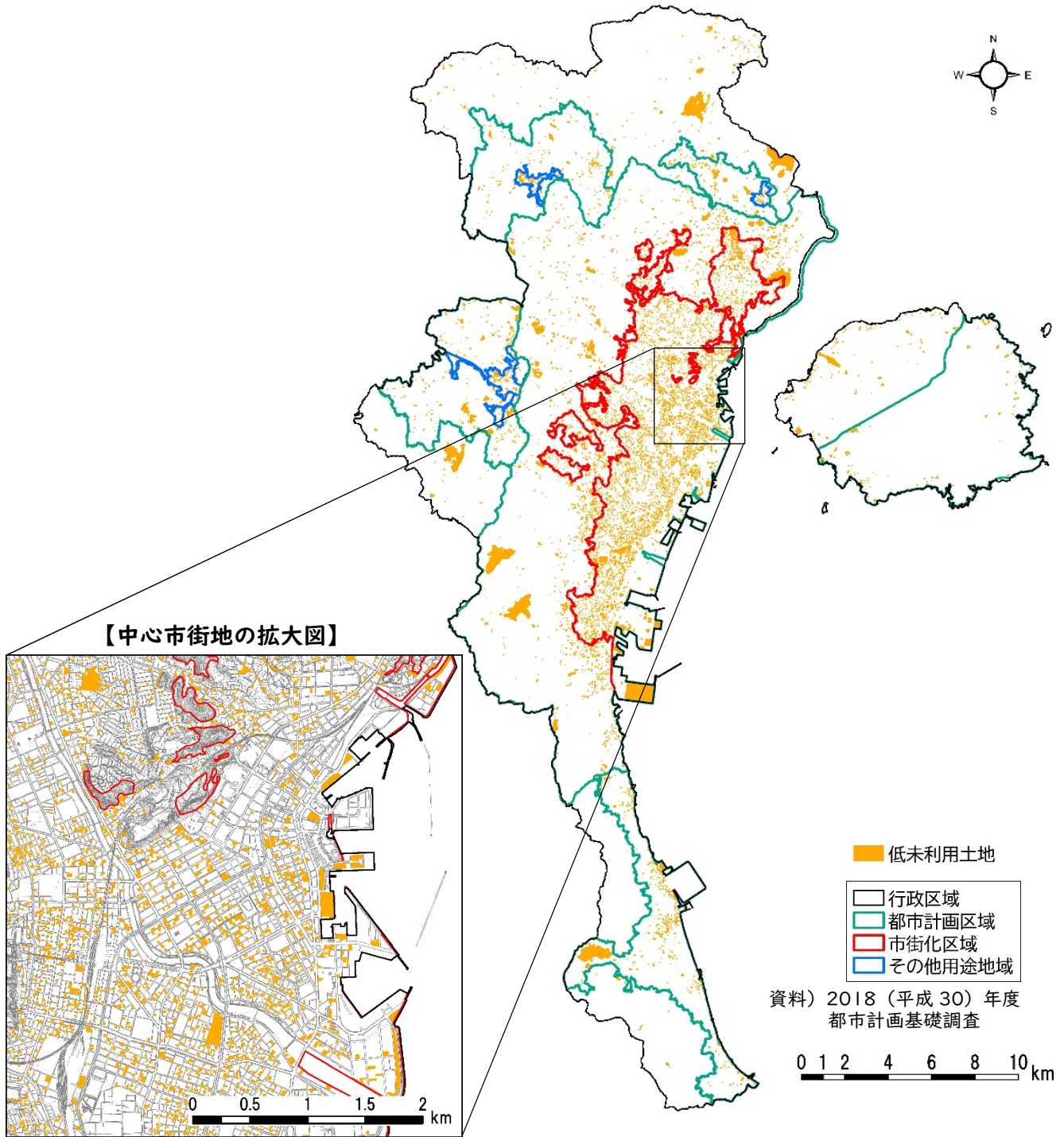
▲ 空家の分布状況

### ⑤ 空き地等の低未利用土地の分布

空き地等の低未利用土地<sup>\*</sup>は、市全域に点在しており、中心市街地においても同様の状況となっています。

※ 空き地、平面駐車場、ゴルフ場、工事中の土地 など

(2018 (平成 30) 年時点の状況であるため、既に土地利用が図られている場所を含みます)



▲ 低未利用土地の分布



### (3) 市街地整備

#### ① 土地区画整理事業

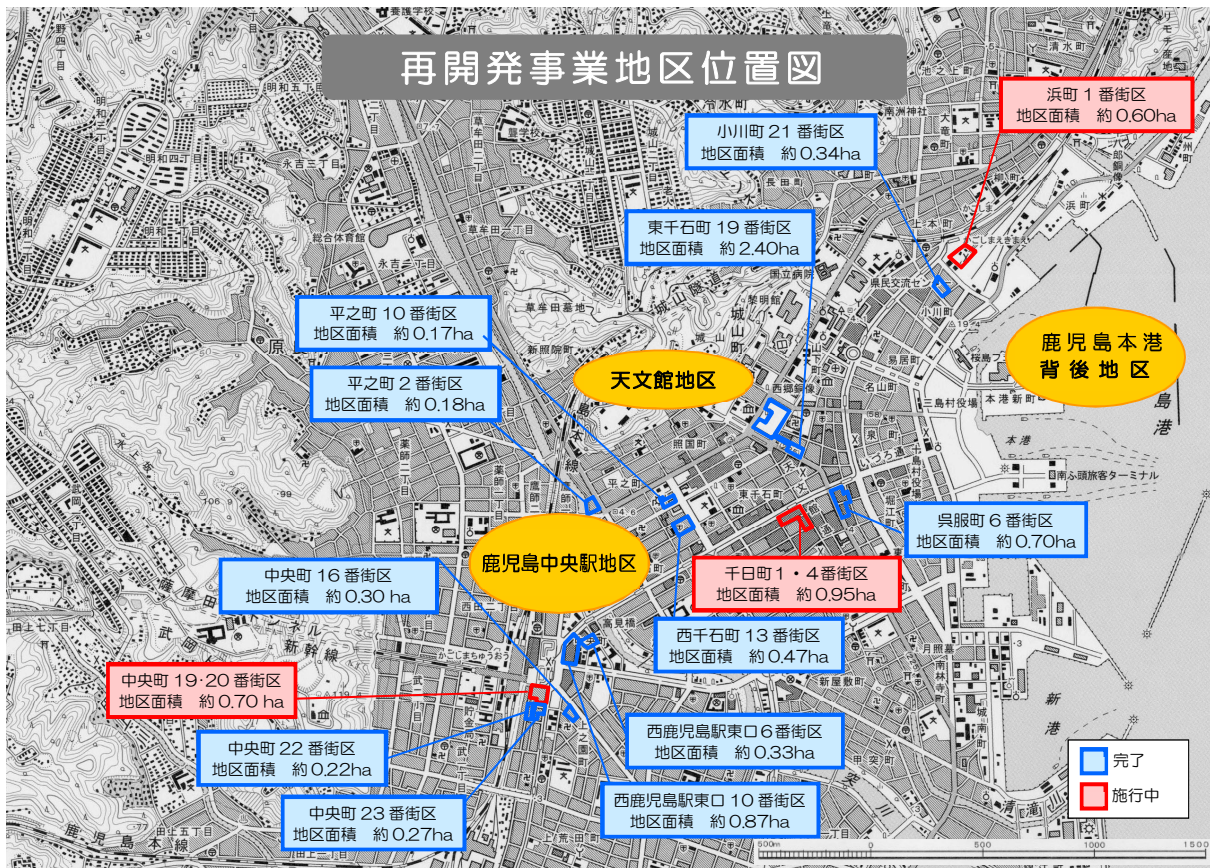
土地区画整理事業は、戦災復興などの31地区で整備が完了しており、2020（令和2）年度末現在、市施行として吉野地区、吉野第二地区、郡山中央地区、谷山第二地区、谷山駅周辺地区、谷山第三地区の6地区が、組合施行として小野地区、南伊敷地区の2地区が施行中となっています。

#### ▼ 土地区画整理事業の状況

区分		施行済		施行中		合計	
		地区数	面積(ha)	地区数	面積(ha)	地区数	面積(ha)
施行者 区分	個人	5	141.8	0	0	5	141.8
	組合	12	377.8	2	166.6	14	544.4
	公共団体	13	728.8	6	349.9	19	1,078.7
	行政庁	1	1,043.9	0	0	1	1,043.9
合計		31	2,292.3	8	516.5	39	2,808.8

#### ② 再開発事業

再開発事業は、中央町や平之町などの11地区で整備が完了しており、2020（令和2）年度末現在、中央町19・20番街区、千日町1・4番街区、浜町1番街区の3地区が施行中となっています。



▲ 再開発事業地区位置図

資料) 鹿兒島市の再開発 2020



### ③ 公共下水道事業

公共下水道事業は、雨水と汚水を別々に排除する分流式を採用しており、市中央部の300haについて、1958（昭和33）年1月に都市計画決定を行い、その後、区域を拡大しています。

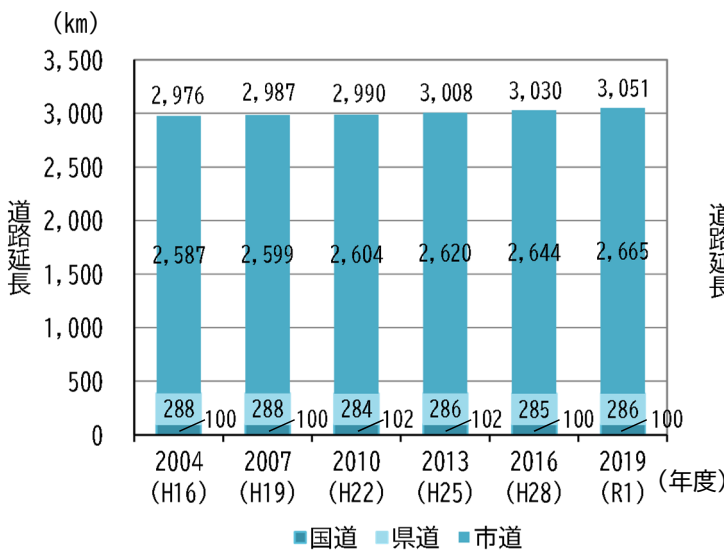
現在は2017（平成29）年3月に都市計画決定を行った区域において、事業を実施しており、汚水は、2020（令和2）年度末時点での処理人口が471,600人、整備率（下水道処理人口普及率）が79.5%、処理能力が221,800 m<sup>3</sup>/日となっています。

雨水は、河川事業などと連携を図りながら、雨水渠などの整備を進めており、2020（令和2）年度末時点での整備率が72.5%、整備面積が5,410haとなっています。

### ④ 道路整備

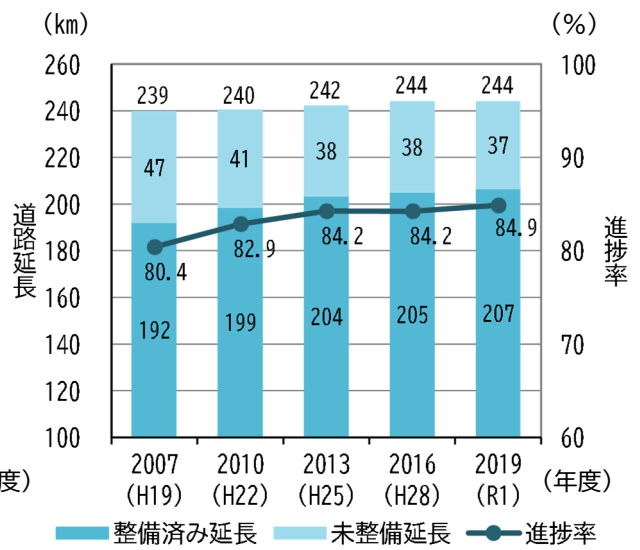
道路は、2019（令和元）年度末時点で3,051kmが整備されています。このうち、国道が100km、県道が286km、市道が2,665kmとなっています。

都市計画道路は、2019（令和元）年度末時点で鹿児島都市計画区域と郡山都市計画区域において合計244km（鹿児島：237.4km、郡山6.4km）を決定しており、整備済み延長は207km、整備の進捗率は84.9%（鹿児島：85.7%、郡山：55.1%）で、全国の都市計画道路の整備延長率である66.0%と比較しても高い状況です。



資料) 鹿児島市統計書

▲ 道路延長（国道、県道及び市道）の状況



資料) 都市計画現況調査

▲ 都市計画道路の整備状況

注) 図中の数値は、単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。